

- ・巻頭特集
「フックシヨップてとて」 1～2面
- ・第22回通常総代会報告 5～7面
- ・高齢協のここに注目
20周年記念誌発刊 11面



北東西南 (NEWS) 2021年 夏号

発行所 和歌山高齢者生活協同組合
住所 和歌山市里198-1
電話 (073)488-1180

ホームページ [和歌山 高齢協](#)

人生の完成期、輝いて生きる！

組合員数 4,329名 (2021年5月31日現在)



2021/06/14 14:23

地域福祉の拠点づくりにご協力を

ワークショップてとて 増改築へ

突然の事故や脳卒中などの病気に遭い、後遺症が残ったら……。和歌山高齢協では事故や病気で障害者になった人たちの居場所となる障害者就労継続支援B型事業所「フックシヨップてとて」を和歌山市里で運営しています。この度、てとての改修と増築をすることになり、組合員のみなさんに寄付や出資の増資を呼び掛けてあります（詳細は別添チラシ）。今回の巻頭特集は「てとて」に注目します。

横手香織所長から

「中途障害や高次脳機能障害者を中心とした作業所は県内でフックシヨップフラットさんと、てとてだけ。まだまだそういう人々への福祉の取り組みが遅れている状況です。てとてが利用者さんにとって居場所となり、初めて笑顔を見せてくれた時が一番やりがいを感じます。障害があっても、独り身で高齢になっても、どんな人も地域で安心して暮らしていける地域づくりの拠点を目指します」

地域の居場所に

ととてには現在、20〜70代の18人が通っています。脳血管疾患などが原因で、片麻痺、失語症、認知機能や記憶力など何らかの影響が残る高次脳機能障害などになった人が多く、粗品タオルや百貨商品の袋詰めといった内職、近隣宅へのポストイングや施設の清掃など施設外就労を行っています。

リーダーとして作業をとりまとめる人、他の利用者さんと会話を楽しむ人、しんどそうな利用者さんのそばに寄り添う人…。作業を続ける中で少しずつそれぞれの役割が見えてきます。職員はそういった利用者さんの強みと弱みを見極め、時期を見て、より高度な作業に取り組めるよう働きかけます。「初めは自分の役割や立ち位置がつかめなかった人も、一緒に過ごす中で発揮できる自分の個性をみつけてゆきます。職員の仕事は、利用者みんなが持っている力を引き出すことです」と横手所長。

事故や病気で不自由になった人たちは、自らの障害を受け入れるのに時間がかかったり、長期療養をきっかけに引きこもったり、家族間だからこそ起きる家庭内トラブル

ル、自分ができなくなったことを責め自信をなくす…。ととてではできることから取り組んでもらっており、それぞれが懸命に勤める中で、「自分にもまだまだできる」と実感できる場所になっています。ととてに通い始め、集団の中で自分の居場所を見つけると気持ちが安定します。

「コロナ前はお花見やドライブに出かけることもありましたが、外出自粛期間中はアート体験を企画。○△□を使った図画やハーバリウムづくりを体験し、それぞれの好みやこだわりが詰まった作品を完成させました。横手所長は「一人ひとり違う作品が完成し、認め合うことができた。みんな違って良いし、周りと同じことができなくても良いんだということを実感できる体験。今後も定期的に開きたい」と喜んでいきます。



増改築にご支援を！



ワークショップととては定員20人。しかし、現在の建物の広さでは一度に13人ぐらいまでしか入ることができません。より、多くの人にご利用いただくのに加え、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、広いスペースで作業するのが望ましいと考え、現在の建物の改修及び増築を行います。利用者さんからも「作業所が広くなったら来れる人も増えるから、できあがるのを楽しみにしています」といった期待がされています。

つきましては別添封チラシをご確認の上、ご寄付あるいは増資をお願いいたします。県内で数少ない中途障害、高次脳機能障害者向けの居場所のさらなる発展へ、ぜひご協力ください。

問い合わせは高齢協本部（073・488・1180）。

輝く！ 組合員！①

笑顔集まる上田商店

上田 眞利子 さん (80) 和歌山市

和歌山市の中之島地区。紀和駅から和歌山城に伸びる通り沿いに地域住民の憩いの場「上田商店」を構える。店先に立てたパラソルの下、いつもの顔が集まり世間話に花が咲く。「上田商店は私にとって生きがいの場所。続けられる限り店を続けたい」と笑顔を見せる。

和歌山市出身。桐蔭高校卒業後、芦屋の洋裁学校で指導者資格を取り、和歌山へ戻ってから中之島地区で洋裁教室を開いた。「当時、紀和駅（旧和歌山駅）は和歌山線、紀勢線、市駅行きが停まるターミナル駅でした。映画や芝居、漫才や歌謡ショーが見られる紀和劇場、食堂、洋服店、病院となんでもそろいました」

結婚、出産を経て、丸正百貨店やぶらくり丁から服のお直しの仕事を受けてきた。還暦を機に隠居生活をしようと考えていた時、近所の花屋から「店

を継いでほしい」と相談があった。「店番べらいなら」と受けたものの、お客さんから「花以外にも惣菜を」との声が寄せられ、自宅で作る肉じゃが、ひじきの煮物、漬物などの販売も始めた。毎日買いに来る人に加え、数日に一回買いに来る人も。外出が困難な人には自ら歩いて届けることもある。車を出してくれる人がいて、スパーや花の卸問屋で、チリ紙や洗剤といった日用品、ジュースや調味料、パンといった食料品を買い付ける。

「一人暮らしで買物に行くのも大変な人が多いですから。しばらく顔を見ないと電話したり家に様子を见に行ったり」

20年近く店を続けるうちに、店先は地域の人のたまり場になった。「話も用事もないけれど、たばこを吸ったり、世間話をしたり、お弁当持ってきて食べたりと好きに過ごしています。『一日一回まりちゃんの顔を見ないと』と言ってくれる人



ご近所のみなさんと（後列右が上田さん）

もいて、私も元気をもらっています」
毎朝7時から夕方まで、体調を崩したり出かけることがない限りは店を開ける。休みの日の翌日は「休みやっとなあ」と声を掛けられることも。「見守りも兼ねて店を開けているのですが、逆に見守ってくれているんだと感じます。互いに支え合って暮らしていきたい」と話している。
上田さんはいっぶく亭の管理にも尽力されています。詳細は9面掲載の20年誌をご覧ください。

活動レポート

開催：4月 会場：やまぐちささえ愛センター
内容：ささえ愛センターのより良い活用を、組合員のみなんで考えていくための運営を考える会が発足。活動への参加者や地域のみなさんから寄せられた声を参考にしながらセンターの運営について考え、高齢協本部と一緒に具体化をすすめます。メンバーは組合員から中村千代子さん、久喜幸子さん、堀代千代子さん、稲内英佐子さん。担当理事は山田俊治理事、島久美子副理事長、内田嘉高専務です。よろしくお願いたします。

ささえ愛センター 運営を考える会



イタリアンに舌鼓

開催：4月22日 会場：やまぐちおたっしゃ館
内容：コロナ禍で外出や行事ごとが自粛している分、食で楽しみを感じてもらおうと元イタリアンシェフの厨房職員が本格料理を作り、大好評でした。



全職員研修で報酬改定を学ぶ

開催：4月16日 会場：実会場とオンライン
内容：各事業所をネットをつないで全職員研修初のオンライン開催。今春の報酬改定で経営が厳しくなった事業所もあり、制度について理解を深めました。



20周年で記念餅まき

開催：3月23日 会場：伊都・橋本事業所
内容：地域に密着した運営を行う伊都・橋本事業所が、高齢協創立20周年を機に地域に感謝を込めた餅まきを行いました。野菜や菓子も飛び交い大盛況でした。

組合員のみなさんが見聞きした身近なニュースを寄稿してください。組合員活動に関連した話題がありたいですが、家族や趣味の活動など身の回りのことでもOKです。文字数は問いませんが300文字以内で。写真も添付お願いします。次回以降の通信に採用された方に、商品券1,000～5,000円分をお贈りします（原稿の長さによる）。応募は住所、氏名、電話番号、ペンネーム（実名が載るのが嫌な方）を書いて、郵送（〒649-6311和歌山市里198-1）か、FAX（073-488-1181）か、メール（jimukyoku@s-co-op.or.jp）で高齢協本部「通信」係へお送りください。
※掲載の際、文意が変わらない程度に添削させていただきます。

組合員ライター募集



令和・お助け隊が集会

開催：7月4日 会場：やまぐちささえ愛センター
内容：昨年末に発足した「令和・お助け隊」の組織強化に向け定期集会を初開催。副隊長に笹木誠次さんを（前列中央）選任し、お助け隊の依頼件数倍増をめざします。

第22回通常総代会 報告

■はじめに

毎年開催している総代会ですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、書面議決書を中心とした開催になりました。107人いる総代へ事前に議案書と書面議決書を送付、84人の総代から返送いただきました。

総代会当日の6月20日は、一部の役員と総代7人がやまぐちささえ愛センター（和歌山市里）に集まって開催。インターネットを使ったオンライン傍聴にも10人程が参加くださり、会場や議事進行の雰囲気を感じていただきました。（総代会の議案書は高齢協ホームページでご覧いただけます）



■可決された議案

第1号議案 2020年度事業報告承認の件

新型コロナウイルスが猛威を振るった一年。休止せざるを得ない組合員活動と、続けなければならない介護・福祉事業の、相反するものを同時に判断する場面が続きました。介護・福祉現場ではオンライン会議の本格導入、不足する衛生用品の確保、補助金の活用などできる限りの手を尽くしました。職員の県外への移動制限など多くの我慢が積み重なった結果、これまで当法人内での感染者報告はありません。さらに、売り上げは4億3268万円と前年度比、予算比とも目標以上を達成。初めてとなる賞与引当金（1850万円）の計上もできるようになりました。組合員活動では、「組合員のためのなんでも相談電話」の開始、「令和・お助け隊」発足、しばらく活動が止まっていた「葬送の生前予約」の再開準備などに取り組みました。

〈第2号議案〉2020年度決算ならびに監査報告承認の件

〈第3号議案〉2020年度損失処理案承認の件

〈第4号議案〉2021年度事業計画決定の件

〈第5号議案〉2021年度収支予算決定の件

〈第6号議案〉2021年度役員報酬決定の件

〈第7号議案〉議案決議効力発生

第2～7号議案は6・7面にて報告いたします。



第2号議案

2020年度決算ならびに監査報告承認の件

貸借対照表(和歌山高齢者生活協同組合 2021年3月31日現在)

単位:円

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	【111,963,863】	【流動負債】	【51,856,306】
現金・預金	36,671,260	短期借入金	0
国保未収金	45,389,832	未払金	25,308,907
公費未収金	17,531,031	未払費用	816,770
個人未収金	2,563,519	未払法人税等	722,500
短期貸付金	1,149,866	預り金	2,680,862
仮払金	292,994	仮受金	170,367
前払費用	3,327,836	受入敷金	2,760,000
未収金	2,357,055	未払消費税	816,900
立替金	2,680,470	賞与引当金	18,580,000
【固定資産】	【200,873,546】	【固定負債】	【245,547,409】
(有形固定資産)	(172,195,295)	借入金	162,797,409
建物	111,505,862	組合債	82,750,000
建物附属設備	65,157,748	負債合計	297,403,715
構築物	16,653,338	純資産の部	
機械装置	22,626,664	【株主資本】	【16,117,214】
車両運搬具	3,874,564	資本金	39,103,000
工具器具備品	16,271,494	(利益剰余金)	(▲22,985,786)
減価償却累計額	▲100,378,224	その他利益剰余金	▲22,985,786
土地	36,483,849	繰越利益剰余金	▲22,985,786
(無形固定資産)	(19,482,951)	純資産合計	16,117,214
借地権	19,307,536		
電話加入権	175,415		
(投資その他の資産)	(9,195,300)		
出資金	215,000		
差入保証金	8,716,000		
敷金	150,000		
預託金	114,300		
【繰延資産】	【683,520】		
水道加入権	683,520		
資産合計	313,520,929	負債・純資産合計	313,520,929

損益計算書(和歌山高齢者生活協同組合 2020年4月1日～2021年3月31日)

単位:円

福祉事業	福祉事業収入	405,682,413	
	福祉事業原価	▲365,789,439	
	福祉事業剰余		39,892,974
その他事業	家賃等	27,003,396	
事業経費	人件費	▲32,923,114	
	物件費	▲47,515,012	
事業収支			▲13,541,756
事業外収益	受取利息 & 配当金	19,110	
	地域支え合い	963,157	
	雑収入	17,211,844	
	事業外収益合計		18,194,111
事業外経費	支払利息	▲2,663,411	
	雑損失	0	
	事業外経費合計		▲2,663,411
経常剰余金			1,988,944
税引前当期剰余金		1,988,944	
法人税等		▲722,500	
当期剰余金			1,266,444
前期繰越剰余金		▲24,252,230	
当期未処分剰余金			▲22,985,786

第3号議案 2020年度損失処理案承認の件

		金額 (円)
I	当期末処理損失金	▲22,985,786
	(うち、当期純剰余金)	(1,266,444)
II	次期繰越損失金	▲22,985,786

第4号議案 2021年度事業計画決定の件

赤字体質で存続の危機があった数年を乗り越えた高齢協。いよいよ「介護・福祉事業」と「組合員の活動」のそれぞれの「さらなる充実」に積極的な挑戦が必要です。

「介護・福祉事業」では引き続き、課題を直視して適切な提案をつくり問題を克服する、より力強い体質の獲得を目標とします。同時に働きやすい職場づくりをさらにすすめます。また、新しいデジタル技術を積極的に導入します。

「組合員の活動」では、いまある活動メニューをわかりやすくし、広報を充実し利用を増やすことが大切です。SNS活用や居場所づくりなどニーズが高い課題には、必要な投資も行いさらなる「組合員の活動」拡大をすすめます。

第5号議案

2021年度収支予算決定の件

項目	科目	金額 (円)
福祉事業収入	介護保険事業	305,828,464
	障害者福祉総合支援事業	95,650,000
	福祉住宅事業	27,590,000
	委託金収入ほか	9,301,100
	小計	438,369,564
福祉事業原価	人件費	303,938,550
	物件費	54,583,236
	小計	358,521,786
一般管理費	人件費	33,660,000
	物件費	39,532,500
	小計	73,192,500
事業剰余		6,655,278
事業外収益		5,952,000
事業外費用		2,400,000
経常剰余		10,207,278

第6号議案

2021年度役員報酬決定の件

2021年度の役員報酬については、下記を総額の範囲とし、この範囲内における各役員への報酬、支給方法等については、理事会にご一任ください。

理事報酬 総額 1800万円以内
 監事報酬 総額 20万円以内



開催状況 & 採決結果

総代数=107人(当日出席7人、書面議決書=84人)

第1号議案 (賛成89、反対0、保留1) 賛成多数により可決

第2号議案 (賛成88、反対0、保留2) 賛成多数により可決

第3号議案 (賛成88、反対1、保留1) 賛成多数により可決

第4号議案 (賛成89、反対0、保留1) 賛成多数により可決

第5号議案 (賛成89、反対0、保留1) 賛成多数により可決

第6号議案 (賛成89、反対0、保留1) 賛成多数により可決

第7号議案 (賛成89、反対0、保留1) 賛成多数により可決

インタビュー「戦争と私」

①玉置千代子さん（和歌山市）

―戦時中の暮らしはどうでしたか。

戦争当時は大阪で暮らしていました。昭和16年に国民学校という名前に変わり、3年生まで大阪にいましたが、戦争の激化で親戚がいる和歌山県の日高郡へ疎開しました。両親は商売をしていたので大阪に残り、終戦前の3月に大阪で空襲に遭いました。

―「両親は無事でしたか。」

はい。大阪での空襲は、それはもう大変だったと聞きます。焼夷弾が雨のように降り注ぎ、乳飲み子だった妹を布団にくるんで2階から投げたそうです。

―その時、玉置さんは。

日高へ疎開していましたが、空襲は経験していません。ですが、ニュースで大阪がやられたと聞いていましたし、電話もつながらず音信不通。疎開先が道成寺駅前だったので、汽車が駅に着くたびに見に行っていました。1週間ぐらいたったある日、真っ黒のすずらかけで、ぼろぼろの服で赤ちゃんを背負っている人が降りてきて、駆け寄ると両親でした。くしゃくしゃになって妹と一緒に泣いたのを

覚えています。

―日高では空襲はありませんでしたか。

大阪の空襲と同じ日に日高でも空襲警報がありました。紀伊水道を北進する爆撃機。三尾村（現在の美浜町）の街の明かりが少し漏れていたため焼夷弾が落とされました。私たちは防空壕にいてその様子を見ていたんです。西の空が赤く焼けていて恐ろしかったです。まさかその爆撃機が自分の両親がいる大阪へ飛んでいくとは思いませんでした。また、日中も御坊市にある軍需工場を狙って爆撃が行われ、日本軍の高角砲に撃たれた爆撃機が海へ落ちていくのを見ました。

―戦時中の暮らしは。

何もかも戦争のためでした。金属は全て政府に供出し、隠し持っているとは非国民と言われてました。日高川の河原で石をどけて畝を作り、サツマイモを植えたり、小学校の運動場も畑になりました。子どもたちが一生懸命植えたサツマイモを夜中に盗みに来る人がいて、卒業生が学校に泊まって交代で見回りをしていました。サツマイモの茎も漬物にするとおいしいんです。お米も一升瓶に入れて突

くのが子どもたちの仕事でした。

―終戦の日は。

学校で家の畳の数を申告させられて、寄宿する将校さんの人数が決まります。うちには2人来ていました。小学校の教室や講堂は兵舎になり、子どもたちは残された教室に詰め込まれて授業をうけました。8月15日はその将校さんと一緒に自宅のラジオを囲んで静かに聞きました。正直ほっとしました。昼間は勤労奉仕で疲れ、夜は空襲警報で逃げる。今日からぐっすり眠れると嬉しかったです。

―次の世代にメッセージを。

戦争は二度としないほしい。戦争で幸せになった人はだれもない。必ずだれかが血を流す。勝っても負けても。



（左）妹の吉岡賀世さん（右）玉置千代子さん

②日野光子さん（和歌山市）



和高女を向陽高校で卒業した（最前列右から2人目が日野さん）

——自身の戦争体験をお聞かせください。

昭和19年3月に和歌山市の中之島国民学校を卒業しました。4月からは県庁前にあった和歌山高等女学校へ。入学してまもなく、英語の授業はなくなりました。男の先生はみんな軍服を着て、登校中や授業中も空襲警報がなるとすぐ中断でした。2年生の上級生は明石の軍需工場へ送られ、1年生の私たちは加太で壕掘りに行ったり、男手が足りない農家で麦の収穫などを手伝いました。紀の川の河口で艦載機に狙われる人がいたとも聞く

し、常に危険と隣り合わせの毎日。勉強したくてもできませんでした。

——和歌山大空襲は大丈夫でしたか。

中之島の自宅は無事でした。夜に爆撃機が空を覆い、ものすごい数の焼夷弾が広がるように降り注ぐ様子を目の当たりにしました。窓が焼けるように真っ赤になり、うちも焼かれるんじゃないかと恐怖を覚えました。空襲の翌日には、「次はこの地区が狙われるぞ」と隣保班の方から強制疎開の指示が出ました。私たちは父親を残し、兵庫の親戚宅へ身を寄せさせてもらうことになりました。

——疎開先では。

空襲の2日後に出発しました。リュックにありっただけの物を詰め込んで汽車に。汽車も窓から乗ろうとする人がいるくらい、人がいっぱいでした。幼子の妹は栄養失調で体中に湿疹が出て、薬もなく疎開先の親戚の人がつわぶぎの葉を温めて貼ってくれました。本当に大変な時代でした。

——戦後は。

9月に和歌山へ戻りました。和高女は門柱のそばにあった守衛さんの小屋以外は何も残っていませんでした。理科室の試験管は溶け、近くの和歌山城も天守閣がなくなっていました。お城も高女も焼かれて、シヨックで情けなかった。授業は、焼かれなかった市立

高女や兵舎を転々として再開しましたが、校舎が変わることに机といすを運ぶのが大変でした。教科書も新聞紙を畳んでハサミで切つて綴じて、授業内容も少なかった。最終学年の時に向陽2年に編入され、きちんとした教科書が配られました。学びたい年齢の時期に戦争が重なり、学校でほとんど学べず悔しかったですね。

——次世代にメッセージを。

とにかく、戦争はだめ。殺しあうだけ。戦時中を振り返ると本当に怖いことだった。子どもの遊びやおもちゃも戦争にちなんだもの、学校でも軍人教育が行われ、暮らしのあらゆる場面に戦争が関係していた。戦争へ突き進んでいることに何の疑いも持たず、まるで洗脳だった。あの過ちを繰り返さないでほしい。



日野光子さん

③中西知恵子さん（和歌山市、寄稿）

大東亜戦争がはじまって、叔父が真珠湾で戦死した。

そして、私の女学校1年生の学校生活が急変した。授業では、英語が廃止、教練が取り入れられ、出征兵士の無事を祈るため三社参り（日前宮、竈山、伊太祈曾神社）、近くの24部隊へ軍服の修理、日赤病院へ傷病兵の慰問に行った。月1回、車庫前の忠霊塔へ『海ゆかば』を歌いに行った。また、近くの病院前で整列して、白木の箱を白布で胸に下げられた英霊の列を出迎えた。それに、毎日のように授業中に千人針の布が廻ってきて、印のところに赤糸で玉結びをした。

私は「辰年」なので年の数だけして次へ送る。続いて廻ってくる！授業にならない！また、男性の先生に次々赤紙が来て運動場から見送った。

春には卒業延期になり、市内の軍需工場で工員さんと一緒に働いた。私の家族は父の郷里である桃山町へ疎開することになり、家財道具を乗せた馬力車について約20キロ自転車で走った。田井ノ瀬を過ぎ、竹房の橋を渡って山の上まで行ってやっと目的地に着いた。

その翌日、B29の襲撃を受けて和歌山城が仕掛け花火のように燃えるのを山の上から眺めた。火を逃れて入った堀で多勢の人が死亡したと聞いた。

父は奥山の沼田で米づくりをしてくれ、母は本家の百姓の手伝いをした。私は近くのお寺の尼さんから、茶道、活け花、和裁を習いに通った。玉音を聞いた人からのうわさで、戦争が負けたことを知って『ホッ』としたことを思い出します。

私は10月に疎開から帰って、6カ月の教員養成所を経て、住友金属の寮の焼け跡に作られた湊小学校で一年生を担当した。その児童が今75才である。私は92才。コロナで運動不足を解消するため、第3水曜日に介護施設で脳トレ、筋トレに励んでいる。（2020年秋）

紙上で実践！すこやか講座②

今回は、健康な状態と要介護状態の間の状態「フレイル」について紹介しました。今回はそのフレイル状態であるかを自宅で簡単にチェックできる方法をお伝えします。

自宅で簡単！フレイルチェック

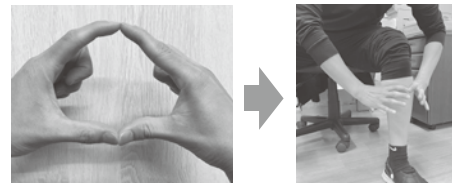
フレイルセルフチェックを2種類(1)(2)紹介します。

(1)下記の5項目のうち、3項目以上あてはまると要注意です。

- 体重の減少（6カ月間で体重が2～3kg減少した）
- 疲労感（疲れやすくなった）
- 身体活動の低下（外出しなくなった、人との交流が減った）
- 握力低下（ペットボトルの蓋を開けにくくなった）
- 歩く速さの低下（横断歩道を青信号の間に渡りきるのが難しくなった）

■セルフチェックで3項目以上、または『指輪っかテスト』で隙間が出来た方は、フレイルの危険信号が灯っていると考えられます。大事なことは早めに気づいて、適切な取り組みを行うことです。そうすれば、フレイルの進行を防ぎ、健康な状態に戻ることができます。

(2)『指輪っかテスト』



①両手の親指と人差し指で輪を作ります。

②利き足でない方のふくらはぎの一番太い部分を力を入れずに軽く囲んでみます。指の輪とふくらはぎの間に隙間が出来た場合は筋肉が不足しています。

講師プロフィール



岡 利樹（デイサービスUUGO所長）

2016年4月から2019年3月まで和歌山高齢者生活協同組合の職員（デイサービス れくらん）として勤務し、現在は理事。2019年9月に紀の川市にデイサービスUUGOを開設。運動・栄養・社会参加に注力したサービスを実施中。また、紀の川市の65歳以上の方を対象とした配食サービスも実施中。

高齢協の ここに注目!!

⑨和歌山高齢協 20周年記念書籍

『輝く！高齢者たち』

和歌山高齢者生活協同組合20年の挑戦！

2020年、和歌山高齢者生活協同組合は創立20周年を迎え、お助け隊の新チーム発足、地域でのイベント開催など様々な事業を展開しました。その締めくくりとして21年6月に出版したのが「輝く！高齢者たち」和歌山高齢者生活協同組合20年の挑戦！」です。

1999年に創立総会を開催。「人生の完成期、輝いて生きる！」を掲げ、組合員477人でスタートしました。鶏を育てて卵を出荷する「コッコプロジェクト」、ハイキングクラブやパソコンサークル、お助け隊など様々な組合員活動が生まれました。組合員数は20年度末時点で4332人と10倍に増えました。

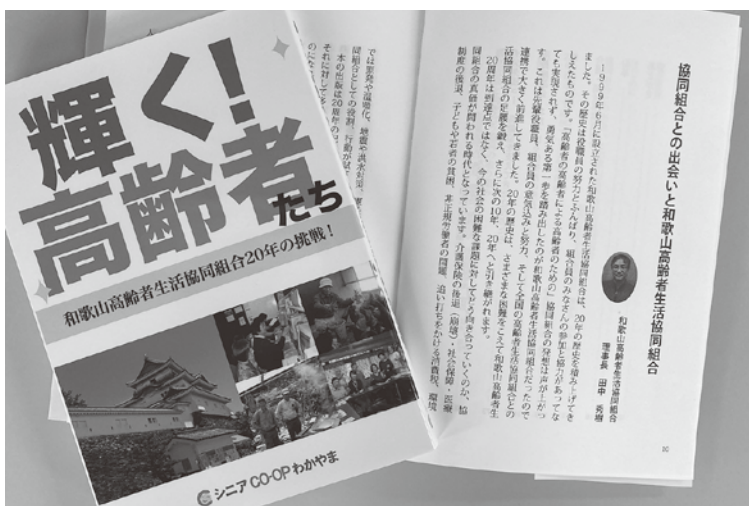
介護保険制度のスタートに合わせて始まった介護事業は、ヘルパー講座を開催し、訪問介護、デイサービス、サービスタ付き高齢者向け住宅などを展開。障害者就労継続支援B型事業所も立ち上げ、幅広い組合員さんにご利用いただいております。年間事業高は創立当初の406万円から20年度には4億3200万円と、20年間で100倍にまで成長しました。

記念書籍では、理事長ら役員による高齢協の生い立ちから歩みをコラムで紹介。社会福祉法人一麦会（麦の郷）理事長で佛教大学社会福祉学部の山本耕平教授、和歌山大学経済学部の金川めぐみ教授の特別寄稿も掲載しており、高齢協の取り組みを専門家の視点から分析いただいております。

高齢協創立期に組織づくりや運動をけん引してくれた元役員さんへのインタビューでは、当時の振り返りに加え、次世代へのエールも盛り込まれていま

す。また、高齢協の介護事業所所長による座談会、開設10年を迎えた組合員活動の拠点「いっぴく亭」紀和庵」の活動を支える組合員さんによる座談会も掲載。年表では各年の出来事やちょっとしたエピソードに写真を添えており、当時は懐かしみながら読んでいただける内容です。

1100円、組合員は1000円。県内各図書館で閲覧できるほか、本部でも販売しております。希望者は高齢協本部（073・488・1180）。



映画紹介「ムービーガイド」

作品名：ソワレ

監督：外山文治 2020年製作／日本／111分



育った環境も場所も違う男女。小さな傷害事件が、ふたりの感情を加速させる。それは、自らの現在を確認する旅の始まりだ。高齢者施設、梅農家など背景はリアル。ところが2人には現実感がない。どこか独特の浮遊感がある。その落差が不思議と魅力的。車窓の明かりを象徴的に使うなど、外山監督の演出は素晴らしい。御坊市・日高町、和歌山市などでロケ。特にぶらくり丁周辺や美園など、先のない逃避行の背景としては最高だ。

わかやま訪問介護事業所 島 哲也

組合員 新規加入&増資のお願い

高齢協は出資金を持ち寄って、組合員相互の助け合いの精神で活動する生協法人です。20歳以上で和歌山県内に住所（もしくは勤務地）を有する方ならどなたでもご加入いただけます。ご加入の際にお預かりした出資金は高齢協の事業に使われています。事業拡大に伴い、既組合員の方には増資（出資金を追加する）をお願いしております。ご協力をお願いします。

■新規加入・増資の方法

- ①所定の加入（増資）申込書にご記入ください。
- ②出資金（一口1000円～）と申込書を、高齢協の各事業所が本部へご持参ください。

※申込書は高齢協の各事業所・本部・活動拠点にあり、郵送も致します。

出資金振り込みの場合…紀陽銀行東和歌山支店
普通 1647037

和歌山高齢者生活協同組合 理事長 田中秀樹

お問い合わせは本部事務局

和歌山市里198-1 電話073-488-1180 FAX073-488-1181

■加入によるメリット

- ・それぞれの「やってみたい」を助け合って実現できる
- ・組合員活動に参加することで、新しい仲間や生きがいの出会いがある
- ・高齢協からの通信が年4回届くなどなど

和歌山高齢者生活協同組合の姿

和歌山高齢者生活協同組合は組合員さんによる互助組織であり、互いの困りごとを助け合う集団です。生きがいづくり事業やお助け隊による生活支援など活動は多岐にわたり、介護・福祉事業にも力を入れています。

◎介護・福祉事業所（和歌山県内13ヵ所）

- ・わかやま訪問介護事業所（訪問介護）
和歌山市楠見中240-49 電話073-455-7979
- ・和歌山ケアプランセンター（ケアプラン作成）
和歌山市中之島758 電話073-424-5295
- ・やまぐち おたっしや館（サ高住）
和歌山市里198-2 電話073-462-1055
- ・やまぐち訪問介護事業所（訪問介護）
和歌山市里198-2 電話073-462-1055
- ・れくらん（デイサービス）
和歌山市里198-2 電話073-462-5558
- ・ワークショップてとて（障害者就労継続支援B型事業所）
和歌山市里266 電話073-461-6756
- ・伊都・橋本事業所（訪問介護）
橋本市高野口町伏原243 電話0736-43-1546
- ・伊都・橋本ケアプランセンター（ケアプラン作成）
橋本市高野口町伏原243 電話0736-44-2330
- ・御坊・日高事業所（訪問介護）
御坊市園397-2 電話0738-23-0396
- ・かみとんだ おたっしや館（サ高住）
西牟婁郡上富田町生馬3225-19 電話0739-47-0866
- ・田辺事業所（訪問介護）
西牟婁郡上富田町生馬字救馬溪185-7 電話0739-47-0010
- ・白浜ケアプランセンター（ケアプラン作成）
西牟婁郡白浜町才野1322 電話0739-34-2672
- ・白浜ぬくもりの里（デイサービス）
西牟婁郡白浜町才野1322 電話0739-34-2172

◎組合員による活動拠点（施設の使用、問い合わせなどは本部073-488-1180へ）

- ・やまぐちささえ愛センター 和歌山市里198-3
- ・和我楽の家 紀の川市上野299-1
- ・いっぶく亭～紀和庵 和歌山市中之島782

◎組合員の活動（ご参加ください）

【お助け隊】和歌山、伊都、御坊、田辺を中心に活動。暮らしの中の困りごとの解決依頼を受け、現役時代の知識や経験を生かして有償ボランティアで活動する。

【JIAS PC（パソコンサークル）】月曜と金曜、紀和庵にて。パソコンを使っのアルバム作成やワープロの練習、使い方の教え合いなど。（北村さん090-7107-0892）

【どこ竹@わかやま】竹とんぼ作りの出前教室を小学校やイベント会場で開催。（石橋さん090-2287-9588）

このほか、ささえ愛センターや紀和庵では、健康体操や絵手紙教室、名曲喫茶など組合員による自主企画が行われています。

◎本部（和歌山市里198-1 電話073-488-1180 FAX073-488-1181）